

研修報告

(遠藤 亘)

≪研修日程≫

研修・視察 月 日	研修・視察先	研修・視察施設	研修・視察内容
5月12日 (火)	リファレンス広 島小町ビル	地方議員研究会	議会制度と質問の作り方×財政 の見方

≪研修内容≫

1. 地方議員研究会

●研修、視察目的

議会制度と質問の作り方・財政の見方を短期間で習得するため

●説 明 者

地方議員研究会事務局長 杉本康介氏

●説明概要

○初参加でも安心:議会の流れと質問づくりの手順

- 1.議会の全体像:議員の仕事と議会の仕組み
- 2.新人が最初に押さえるルール:会議規則はローカルルール
- 3.一般質問の"役割":何のために質問するのか(目的の置き方)
- 4.テーマの決め方:住民ニーズ・行政課題から選ぶコツ
- 5.質問の組み立て手順:間違いだらけの質問から卒業を
- 6.質問のために必要な資料、これを押さえてから質問づくり
- 7.やりがちな失敗回避:通らない質問や現状を聞く無駄質問など質問のNG例

○財政の基礎を学び、財政の苦手意識を無くす研修

- 1.財政の全体像:予算→執行→決算の流れをつかむ
- 2.地方財政をやさしく整理:全体と地方交付税の仕組み
- 3.予算決算の読み方:まず見るべき「ここだけ」チェックポイント
- 4.決算カードの読み方:決算から見える“実態”のつかみ方
- 5.なぜ財政が苦手になるか:職員や先輩議員も財政は苦手?
- 6.ムダ削減→政策提案:批判で終わらせない"つなげ方"
- 7.財政質問の基本:比較と自治体独自の施策

●考 察

まず議員の仕事は何か？の間から始まった研修会で、住民の福祉の増進であって、向上ではないことから始まりました。

○議会制度と質問の作り方について

今回の研修を通して、1期目は知らないのが当然。まずは学ぶことから。そして常に「根拠・目的と成果」を意識することが大切であると学んだ。そして、議会制度の基本を早い段階で理解することの重要性を改めて感じた。特に、会議規則が自治体ごとに異なる「ローカルルール」である点は、実際の議会運営や質問づくりに大きく関わるため、今後しっかり身につけていく必要があると考えた。

また、一般質問では「目的を明確にすること」が最も重要であると学んだ。住民ニーズや行政課題を踏まえてテーマを選び、論点を整理し、伝わりやすい構成にすることで、より効果的な質問ができると理解した。質問の流れや書き方についても具体的なポイントが示されており、実務にすぐ活かせる内容であった。

○財政の見方について

財政研修では、予算・決算の流れや財政指標の基本を学び、これまで苦手意識のあった部分を整理して理解することができた。財政資料のどこを見るべきか、どの数字が自治体の状況を示すのが明確になり、その為にも、過去3年分の予算書・決算書・監査意見書・総合計画・決算カードの確認が必要と学び、今後の質問づくりにも役立つと感じた。

お金の使い方を決めているのは議会であること。事業の成果を聞く、理解出来なければ細かく聞き続ける必要があり重要。

財政の理解は、政策提案の質や質問の深さに直結するため、引き続き学びを深めていく必要がある。今回の研修は、財政を「難しいもの」ではなく「読み解けるもの」として捉え直す良い機会となった。